

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：32526
研究種目：基盤研究(B) (一般)
研究期間：2020～2022
課題番号：20H01632
研究課題名(和文) 生徒・教員調査と国際比較にもとづいた「性の多様性」教育の課題と実践に関する研究

研究課題名(英文) Research on the tasks of gender and sexual diversity education, based on questionnaire surveys for junior high school students and teachers

研究代表者
池谷 壽夫 (IKEYA, HISAO)
了徳寺大学・健康科学部・教授

研究者番号：90136367
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究全体の成果として、日本で性の多様性教育を進めるためには、以下のことが必要であることが明らかになった。(1)性的マイノリティの権利保障や性教育に関する法的規定を求めつつ、(2)最近の小・中教科書で性の多様性が取り上げられつつあることを活かして性の多様性教育を進めること、また同時に(3)学校環境に見られる男女二分法を見直しつつ、(4)LGBTQを含めて多様な子どもが安全・安心していられる場と条件を確保すること、そして(5)教員養成課程及び教員研修で性の多様性教育を必修とすること。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、第1に生徒の性知識調査の分析と性の多様性教育を実践している教員の聞き取り調査を通して、性の多様性をめぐる生徒の課題と性の多様性教育を実践する教員固有の課題を明らかにしたことである。第2に、性的マイノリティをめぐる法的規定、性の多様性を含む性教育に関する学習指導要領上の法的規定、および性教育に関連する教科書での性の多様性の記述などを国際比較することで、日本における性の多様性教育の現状と課題を浮き彫りにしたことである。

研究成果の概要(英文)：As a result of this research as a whole, it became clear that in order to promote sexual and gender diversity education in Japan, it is necessary ; (1) to seek legal provisions to guarantee rights of sexual minorities and sex education, (2) to take advantage of the recent inclusion of sexual diversity in primary and secondary school textbooks in order to promote sexual and gender diversity education, and at the same time (3) to reflect the gender dichotomy found in school environments, (4) to ensure places and conditions where diverse children including LGBTQ children can be safe and secure; and (5) to make sexuality education including sexual and gender diversity education compulsory in teacher training programme and teacher training.

研究分野：教育学

キーワード：ジェンダー セクシュアリティ 性の多様性 性教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 今日、メディア社会の急激な進展とともにインターネットやスマホが思春期世代にも普及し、「友人や先輩」や「学校」と並んで、「アダルト動画 (DVD やネットなど)」や「インターネットやアプリ、SNS など」が青少年の重要な性の情報源となっている(日本性教育協会編 2019)と言われる。しかし「性的マイノリティ (同性愛、性同一性障害など)」に関して知っている中学生は 15%、高校生は 32% しかいない (性教育協会編 2019)。レズビアンやゲイについては 7~8 割の高校生が「知っている」が、バイセクシュアルについては 3 割、トランスジェンダーについては 5 割が「全く知らない」(田中敏明他 2018)。はたしてスマホ世代の中学生は LGBTIQ を含めた性の問題に関して正確な知識を増やしているのだろうか。そのためにも中学生の性の多様性を含む性の知識等の実態を把握することが必要となる。

(2) 日高庸晴「教員 5,979 人の LGBT 意識調査」(2011~2013 年)によれば、LGBT を授業で取り扱う必要があると回答した教員は 6 割を超えるが、実際に取り入れた経験のある教員は 14% と低く、教員養成機関で LGBTI について学んだ教員は 1 割にも満たない。また文科省の通知では、性同一性障害への対応が中心にあり、その実際の対応も各学校に任せられ、「中学校学習指導要領解説 保健体育」でも、LGBTIQ は取り上げられていない。しかも、教職課程において性に関する内容を含む科目を開講していない教員養成大学が 6 割あり、当該科目があるとする大学でも必修・専攻必修は 4 割しかない(基盤研究(B)「国際水準に基づく教科書・教員養成課程の分析および性教育プログラム開発に関する研究」2016~2018 年度、研究代表者:池谷壽夫)。こうした中で性の多様性教育を進めていくうえで、教員はどのような困難や課題を抱えているかを明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

(1) 生徒の性の多様性を含む性に関する知識の獲得状況を明らかにし、性の多様性教育の課題を探ること。

(2) 性の多様性を含む性教育を進めるうえで、教員が抱えている困難や課題を明らかにすること。

(3) 諸外国の性の多様性を含む性教育の現状をと課題を調査することで、日本の性の多様性を含む性教育の課題を浮き彫りにすること。

3. 研究の方法

(1) 中学生の性意識・性知識調査にもとづく「性の多様性」教育課題の解明のために、2007 年の中学生性知識調査をベースに、性の多様性を含めた性に関する性情報源や知識の正確さ、性意識を測定する質問紙調査を中学生対象に実施し、2007 年調査との比較によって仮説を検証するとともに、「性の多様性」教育の重点的課題を析出する。

(2) 性の多様性に関する学校・教員の取り組み上の課題を解明するために、中学校教員や教育行政が性の多様性に対してどのような意識をもち性の多様性教育に取り組んでいるかを明らかにするために、「性の多様性」教育に積極的に取り組んでいる教員や教育行政への聞き取り調査を

行う。

(3)海外における「性の多様性」に関する先進的な教育を調査・検討することを通して、日本における性の多様性教育への取り組みの課題を析出する。そのために、ドイツ・オランダ・フィンランド・イギリス等の「性の多様性」教育の取り組みを調査・検討する。

4．研究成果

(1) 全国中学生性意識・性知識調査から次のことが明らかになった。 2007年調査と比べて、性知識問題の合計平均正答数が増え、わからない数が減っている。しかし、性の多様性について約3割の生徒しか学んではいないが、生徒は異性の心理、自他を尊重するデート法などと並んで性の多様性について知りたがっている。多様な性に対する差別的な場面を見聞きしたことがないものが半数近くいるが、見聞きした場としては、テレビ・ラジオ、ツイッターやネット動画、マンガなどのメディアに次いで、学校が挙げられている。この点で学校の在り方が問われる。

スマホ所持の有無に注目すると、スマホ所持群は、全体的に性知識問題の正答率が高く、「射精」や「性的接触(セックスなど)」を学校で学んだ割合、特定の交際相手と「デートをする」「手をつなぐ」「抱き合う(ハグする)」「キスをする」といった行為を許容する割合が有意に高い。男女別で見ると、女子ではスマホの所持は、「性知識」の正答率やわからない率を上下させるほどの影響力はそれほど持っていないが、男子のスマホ所持は女子に比べて「性知識」の有無に一定の影響力を有する傾向がみられる。

(2) 教員のインタビュー調査からは、性の多様性を含む性教育のためには、児童生徒にとって身近な存在である教員が自らの人権感覚を振り返る機会が必要であり、そのためにも継続的な教職員研修が必要なこと、さらに、年1回程度の研修を実施するだけに留まることなく、定期的に専門的知識の更新や情報共有ができる場の設定や教員同士の交流機会の提供など、教員側への継続的な支援の工夫も重要であること、が明らかになった。

(3) 海外調査研究については最終的にはドイツ、フィンランド、オランダ、スウェーデン、イギリス、台湾の性の多様性教育の現状と課題を明らかにすることができた。そこでは、性的マイノリティの権利及び性の多様性を含む性教育が法的に確保されていること、性教育関連の授業科目、とりわけ生物教科書でも性の多様性に関する内容が充実してきていること、それでも教員養成課程での性の多様性を含む性教育の授業及び現職教員の研修の充実が性の多様性教育の最重要課題の一つになっていることが明らかになった。これに対して、日本では性の多様性を含む性教育に関する法的規定もなく、学習指導要領でも学習内容として取り上げられていない。それでも最近の小・中教科書ではわずかではあるが性の多様性が取り上げられつつある。日本で「性の多様性」教育を進めるためには、第1に、人間(とその性)の多様性の観点から、学校環境における男女二分法の見直しを行い進めつつ、LGBTIQの子どもや保護者、教職員を含めた人権の擁護を同時に行っていくことが必要である。具体的には男女二分法にもとづく校則の諸規則・慣習の見直し(基本的には制服の廃止、服装の自由、髪型の自由、男女別集団行動の廃止など)、保健体育やその他の授業での固定した男女共習・男女別習の柔軟な見直しなどが考えられる。第2に、性同一性障害者へのいじめ対策や個別配慮という消極的な対応にとどまらず、「セクシュアリティとジェンダーの多様性」の肯定的アプローチから、LGBTIQを含めて多様な子どもが安全・安心していられる場と条件をその子の意思を尊重しながら確保しつつ(少なくとも子どもの権利条約で保障されている子どもの権利とその行使の保障)、「性の多様性」教育を進めること。第3に教員養成課程で性および性の多様性教育を必修とすることが求められる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 池谷壽夫	4. 巻 18号
2. 論文標題 ドイツにおける性の多様性への取り組みと教育の現状 - ノルトライン・ヴェストファーレン州での取り組みを中心に、2024年3月	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 了徳寺大学紀要	6. 最初と最後の頁 66-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18933/0002000108	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 良 香織	4. 巻 90(8)
2. 論文標題 「生命(いのち)の安全教育」の特徴と「期待」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 産科と婦人科	6. 最初と最後の頁 885-889
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34433/og.0000000343	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 良 香織	4. 巻 71(2)
2. 論文標題 なぜ乳幼児期に性教育が必要なのか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 保育の友	6. 最初と最後の頁 18 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 関口久志	4. 巻 112号
2. 論文標題 スウェーデンのユニークで意欲的な先生紹介	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 季刊 セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 154-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本紀子	4. 巻 1号
2. 論文標題 世界から見た日本の性教育 人間の多様性や性と生殖をどう取り上げているか	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間学研究センター紀要 (仙台白百合女子大学)	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本紀子	4. 巻 2023年11月号
2. 論文標題 未来のため、性教育をふり返る	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 教職研修 (教育開発研究所) ()	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷壽夫	4. 巻 17号
2. 論文標題 日本型「多様性」概念と「多様性」教育の問題点	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 了徳寺大学紀要	6. 最初と最後の頁 66 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18933/00000476	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本紀子	4. 巻 2022年号
2. 論文標題 日本の性教育の現状と課題 日本でも国際水準の包括的性教育を！	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女性白書2022 (ほるぷ出版)	6. 最初と最後の頁 114 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 良 香織	4. 巻 8月8日号
2. 論文標題 「性的同意」の学びを保障するにあたっておさえておきたいこと	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高校保健ニュース2022年8月08日	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木輝順、久保田美穂、池谷壽夫、橋本紀子、関口久志、森岡真梨、田中和江、加野泉	4. 巻 No.136
2. 論文標題 日本の中～大規模中学校の教育課程における性教育の位置付け 2007年調査と2017年調査の比較	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代性教育ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池谷壽夫	4. 巻 No. 137
2. 論文標題 『ヨーロッパにおけるセクシュアリティ教育スタンダード』とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『女も男も』（労働教育センター）	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸井淑実	4. 巻 9
2. 論文標題 性的少数者のカミングアウトの実態と学校教育の課題に関する研究 女性同性愛、男性同性愛、性同一性障害（性別違和）の当事者インタビュー調査より 2020年15巻2号 p. 143-152	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 群馬医療福祉大学紀要	6. 最初と最後の頁 21-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口久志	4. 巻 73 (10)
2. 論文標題 ジェンダー平等を基盤とした人権保障	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『人権と部落問題』（部落問題研究所）	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸井淑実	4. 巻 15-2
2. 論文標題 性的少数者の学校生活の実態と学校教育の課題に関する研究 女性同性愛、男性同性愛、性同一性障害（性別違和）の当事者インタビュー調査より	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本健康相談学会誌	6. 最初と最後の頁 143-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50846/jjahca.15.2_143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 橋本紀子	4. 巻 62-4
2. 論文標題 性と性教育をめぐるわが国の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『保健の科学』	6. 最初と最後の頁 220-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 良 香織
2. 発表標題 「生命の安全教育」と人権教育
3. 学会等名 第 21 回研究大会・日本 人権教育研究学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 加野 泉・池谷壽夫・橋本紀子・関口久志
2. 発表標題 スウェーデンの性教育における学校との連携 2022年ラーロプラン（教育計画）の改正を焦点として
3. 学会等名 第96回日本社会学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 茂木輝順、良 香織、加野 泉、田中和江、丸井 淑美
2. 発表標題 中学生の性に関する知識と意識の調査 - 2007年調査と2021年調査との比較 -
3. 学会等名 第42 回日本思春期学会 学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 加野 泉、茂木輝順、池谷壽夫
2. 発表標題 「性の多様性」教育の課題と実践 スウェーデン調査からの検討
3. 学会等名 社会文化学会 第26 回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 池谷壽夫
2. 発表標題 「性の多様性sexual and gender diversity」教育の現状と課題
3. 学会等名 世界人権問題研究センタープロジェクト「性的マイノリティ・人権教育・性教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池谷壽夫
2. 発表標題 日本における多様性教育の危うさ
3. 学会等名 第30回全国教育研究交流集会（民主教育研究所）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加野泉
2. 発表標題 Gender Diversity in STEM Fields: The Challenges We Face
3. 学会等名 JSPS Japanese-German Graduate Externship Program (招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 浅井春夫、遠藤まめた、染谷明日香、田代美江子、松岡宗嗣、水野哲夫編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 185
3. 書名 Q& A 多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育パッシングに立ち向かう74問	

1. 著者名 田代美江子、前川直哉、丸井淑美、久保田美穂	4. 発行年 2023年
2. 出版社 少年写真新聞社	5. 総ページ数 112
3. 書名 自分を生きるための性のこと 性と人間関係編	

1. 著者名 良 香織	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 48
3. 書名 考えよう！ 人間の一生と性（人間と性の絵本） 5	

1. 著者名 良 香織	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 48
3. 書名 性は人権なの？（人間と性の絵本） 4	

1. 著者名 浅井 春夫/良 香織（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 子どもの未来社	5. 総ページ数 192
3. 書名 からだの権利教育入門 幼児・学童編 生命（いのち）の安全教育の課題を踏まえて	

1. 著者名 樋上 典子/良 香織/田代 美江子/渡辺 大輔	4. 発行年 2022年
2. 出版社 エイデル出版	5. 総ページ数 231
3. 書名 実践 包括的性教育：思春期の子どもたちに「性の学び」を届けたい!!：『国際セクシュアリティ教育ガイドダンス』を活かす：どう語り、どう伝えるか	

1. 著者名 林 雄亮/石川 由香里/加藤 秀一（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 若者の性の現在地 青少年の性行動全国調査と複合的アプローチから考える	

1. 著者名 遠藤 伸子, 池添 志乃, 籠谷 恵, 朝倉 隆司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東山書房	5. 総ページ数 508
3. 書名 新版 学校看護	

1. 著者名 近藤洋子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 248
3. 書名 「生命と性」の教育	

1. 著者名 関口久志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 エイデル研究所	5. 総ページ数 238
3. 書名 改訂 性の“幸せ”ガイド 若者たちのリアルストーリー	

1. 著者名 関口久志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 エイデル研究所	5. 総ページ数 238
3. 書名 改訂 性の“幸せ”ガイド 若者たちのリアルストーリー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丸井 淑美 (MARUI YOSHIMI) (00814998)	日本赤十字秋田看護大学・看護学部看護学科・教授 (31403)	
研究分担者	加野 泉 (KANO IZUMIUSHITORA) (00828840)	名古屋工業大学・工学(系)研究科(研究院)・准教授 (13903)	
研究分担者	良 香織 (USHITORA KAORI) (10459224)	宇都宮大学・共同教育学部・准教授 (12201)	
研究分担者	橋本 紀子 (HASHIMOTO NORIKO) (20138530)	女子栄養大学・付置研究所・客員教授 (32625)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	影山 千春 (KAGEYAMA CHIHARU)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	関口 久志 (SEKIGUCHI HISASHI)		
研究協力者	茂木 輝順 (MOTEGI TERUNORI)		
研究協力者	田中 和江 (TANAKA KAZUE)		
研究協力者	森岡 真梨 (MORIOKA MARI)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関